

項	教育目標	重点目標 (努力目標)	具体的な取組	取組状況・成果・課題	自己評価 (4点満点)	学校関係者からいただいた 評価・意見等	改善策 ※左欄(学校関係者からいただいた評価・ 意見等)を踏まえた改善策には、下線
心豊かにたくましく生きる 神戸の子供を育む	広い心をもち 健やかな体をつくり 自ら学ぶ子の育成	広い心	人権教育の推進	児童の様子を細かく観察し、言葉遣いや友達との関わり方などについて把握してきた。気になった言動等があれば、随時指導した。毎年行っている人権授業や人権標語作りの活動によって人権意識は高まってきている。	4	特支学級児童に対しても優しく接している。小学生の段階で人権の何たるかを理解するのは難しい。まずは、個性の尊重が人権の尊重につながることを理解してくれればいいのではないかな。	<u>児童の観察と人権意識向上の取組を継続していく。</u>
			異学年交流活動	活動が大幅に制限されたが、「乙木タイム」や「びよんびよんタイム(縄跳び)」、メッセージの交換など交流活動を行うことで相手を思いやる気持ちを育ててきた。	4	1年生から6年生まで最大6歳差がある子供たちが集う小学生だからこそ、異学年の交流活動は意味があると思う。	<u>活動の形や方法を工夫して相手を思いやる気持ちを育てていく。</u>
			3つの「あ」	本校の合言葉「あかるくあいさつありがとう」の全学級掲示や、登校時のあいさつ運動を継続している。自分から進んで気持ちの良い挨拶ができる児童が増えてきている。	3	素直に「ありがとう」が言える子供たちが素敵だ。あいさつができる子供は、大人になってもコミュニケーションに困らないと思う。気軽にあいさつできる環境づくりを。	合言葉とあいさつ運動を継続し、気持ちの良い挨拶ができる児童をより増やしていく。
		健やかな体	体育指導の改善	3密を避ける感染症対策を共通理解し、昨年に引き続き、安全で効果的な場づくりの工夫に力を入れた。また、運動量の確保に留意した学習展開を心がけた。	3	体育とは危険と隣り合わせの部分もある。身を守ることを習得し、自分の体の限界を知ることでも体育の一面であると思う。安全性ばかりに関心が注がれる今の体育に不安を感じる。	「神戸市体育指導のてびき」の改定内容を理解し、教育実践と更なる改善に努める。
			体力づくり	バスケットボール・一輪車を休み時間、放課後はサッカーボールも全ての児童が自由に使うことができるようにしている。コロナ禍の中でスポ協活動が実施できなかったが、朝の運動タイム(縄跳び)を実施できた。休み時間元気に運動場で遊ぶなど運動の日常化がほぼできている。	3	時間割全体における体育の時間が少ない。放課後を有効活用する方法もあるのでは。(先生方の負担減とのバランスを要考慮)	運動会の開催時期の変更や運動量の確保など、新たな年間指導計画を作成する際に、 <u>体力向上に向けた</u> 、より効果的な計画を立てる。
			保健・食育指導	12月の学校保健委員会では、「感染を防ごう。わたしたちにできること」について考え、コロナ感染防止に対する正しい知識や取組について発表した。また、今年度も栄養教諭を中心に、各学年で食育指導を推進してきた。	4	食品ロスをいかに減らすかについても指導してもらいたい。環境負担の軽減や農産物の生産者の思いなど、身近な改善が地球規模の改善につながる。	学校保健委員会のテーマをできるだけ1学期の早い段階で決定し、テーマに向けた取り組みを、より長期間行えるようにする。
		主体的な学びの育成	5分前行動に取り組み、授業開始時刻前には教室で学習に臨む準備ができている。昨年度に続き、主体的・対話的な学習を授業で行うことで、児童の考えで授業が深まったり、次の課題へと発展させたりすることも、徐々にできるようになってきている。	4	学校行事での際、子供たちの中から委員を選出し、子供たち主体で運営していくのはどうか。	<u>引き続き、主体的・対話的な学習をより推進していく。</u>	

		自ら学ぶ力	授業改善	ソーシャルスキルを学習活動に取り入れている。ペアトーク・グループトークを学習展開に位置付け、小集団の学び合いの中で伝え合う力を伸ばした。職員全員の授業改善への意識は高い。	4	学校の先生は精一杯授業をしてくれていると思うので特に授業改善要望はない。	引き続き、子供たちの学びあい中で伝え合う力を育む。また、カリキュラムマネジメントを進めて行くと共に、ICT機器を活かした授業も構築していく。
			基礎学力の定着	昨年度から授業の進め方や学習規律を校内で統一した「乙木スタンダード」を全学級で進め、個別学習や小集団学習、放課後の補充学習を随時行ってきた。少しずつ基礎学力が定着してきているが、コロナ禍の影響もあり、全体の底上げには至っていない。	3	低学年は特に、4、5月の自宅待機のため、基礎を学ぶ時間がなかったのではないかと。対応も大変だったと思う。学習指導要領や教科書通りの学習でいいと思う。先生も子供も、のびのび教えて、のびのび勉強してくれればよい。	<u>基礎学力のさらなる定着のために更に「乙木スタンダード」を押し進める。</u> また、全学級に配置されたICT機器や一人一台の情報端末を有効活用する。
安全・地域・安心と共に楽しい学校を支える築き、	校内研修の充実		書く力を伸ばす授業づくり	「自分の思いや考えを相手や条件に応じて書く力」を育むために、を教科指導課から講師を招き、研修を重ねた。2つの全体授業をもとに全職員で参加し協議会を持った。	3	学校の先生はわかりやすい授業をするために精一杯授業をしてくれていると思うので特に授業改善要望はない。	研修で学んだことを活かし、伝える力における「書く力」に焦点を当て、育成していきたい。
			いじめ防止基本方針に基づくいじめ防止対策に関する取組(いじめ問題対策委員会)	学期ごとのアンケートによる実態把握、日々の児童観察、確実な「報・連・相」を続け、組織として未然防止・早期対応をすることができた。関係機関との連絡も密に行った。	4	先生が子供たち同士のかかわりをどのように把握し、指導しているかが大切である。	児童の話を日常的に職員室で話題にする等、多面的な児童理解を深め、今後も組織的に未然防止・早期対応に努めたい。関係機関との連絡も密に行う。
			業務改善、超過勤務時間の短縮	期首・期中面談内容に業務改善の話題を取り上げ、一人一人の意識を高めてきた。毎月職員の超過勤務時間を管理職が把握し、実態を伝えたり、声掛けを行っている。	3	「なぜ、先生が忙しいのか？」ということが今ひとつ世間に理解されていないことが先生の業務改善につながっていない気がする。	教員が児童と向き合う時間、授業の準備をする時間がより確保できるようにする。業務の質量、優先順位などを考慮するなど、更なる改善に努める。
			校内環境の整備 「安心安全の学校環境づくり」	日常点検と定期点検を確実にし、補修が必要な箇所は早急に対処した。業者に依頼すべき補修箇所を事務局に申請し、可能な限りの改修工事を実現させた。	4	学校運営上、乙木小学校の校内環境の整備はうまくいっていると思う。	月毎・学期毎の点検はもちろん、日常点検も丁寧に行う。
			地域・保護者との連携	コロナ禍の影響で活動が大幅に制限されたが、青少協・ふれまち・開放等と協力し、地域の方々との連携を図ることができた。保護者との信頼関係構築に努め、家庭とのつながりを大切にしたい。	4	コロナの影響で児童との交流ができなかったのは残念だった。掃除などお手伝いできることはさせてもらいたい。PTAについては本部役員の担い手不足に風前の灯。地域団体の皆さんにはお世話になりっぱなしである。	<u>引き続きPTA・青少協・ふれまち・開放との連携を大切にする。</u> 保護者との家庭連絡も日常化していく。